（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライオン			
○保護者評価実施期間	2025年　2月　1日		～	2025年　2月　28日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	20	（回答者数）	16
○従業者評価実施期間	2025年　3月　1日		～	2025年　3月　14日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	11	（回答者数）	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との面談や電話連絡、電話が苦手な保護者はメール連絡等を通して、家庭・家族の困り感を聞き、支援に繋げました。	自分からの発信の難しい保護者には、職員側から連絡をとることで、保護者が困り感を表現しやすい環境を設定しました。必要に応じて、児童相談所や区役所への同行をしました。	引き続き、家族支援の拡充を図るために、月一回程度の面談や、グループカウンセリングやグループスタディへの参加を促します。
2	発達障がいや知的障がいに加え、アレルギーやてんかん、難病のある児童に対してに応じて個別対応をしました。	子どもの特性等を職員間で共有し、発作時やけがや事故発生時にはどのような対応をするか、マニュアルを作成し、職員パートさんと情報共有し、安全管理に努めました。	クラス職員にも子どもにかかわる職員に対して、更に子どもの特性等を情報共有し、安心安全で過ごすことが出来る様に支援します。
3	朝研修や年代別年収、部門別研修等に参加し、またウォッチミープレイでは外部講師によるＳＶを受ける事で、より専門性を高めています。年に2回の親子発達支援では、理事長や法人内の心理担当職員によるＳＶを受けています。	研修やＳＶで受けた結果を職員間で共有し、事業所運営に生かしてます。	職員だけでなく、必要な支援方法はクラス会議を通してパート職員にも伝えることで、支援の拡充に繋げます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園、他児童発達支援事業に併行通園しているお子さんの併行通園先すべてと連携は出来ていません。電話連絡や訪問など、関係機関と連携が出来たケースもありますが、出来ていないケースもあります。	感染症への危惧に加え保護者からの希望もあり、関係機関との連携が困難なケースがありました。	連携会議や訪問が出来ないケースであっても保護者の許可を得ることが出来た事業所などの併行通園先に対しては、電話連絡を行うことで、連携の出来る支援を行っていきます。また、センター研修に参加する事で、関係機関と顔をみ合わせる機会を作っていきます。
2			
3			